



学校だより

バンクーバー補習授業校

2026年度

第2号

2026・4・10

未来へつなぐ確かな学びの場を・・・

～令和8(2026)年度のスタートにあたって～

校地周辺の桜が、新入生の入学を祝福するかのように咲き誇る中、4月5日(日)、令和8年度前期始業式並びに第54回入学式を挙行了しました。

今年度も、幼稚部・小学部・中学部・高等部に入学生66名および各学年に新たな編入生を迎え、バンクーバー補習授業校の令和8年度が始動しました。

本校の児童生徒は、平日は現地校で学びながら、土曜日に補習校へ通い、日本の学習指導要領に基づく主要教科や日本の文化を学びます。現地校と補習校の両立は決して容易なものではありませんが、この経験は、子どもたちの将来を切り拓く大きな力となります。

二つの言語と文化を行き来しながら学ぶことのできる環境は、これからの時代を生きる子どもたちにとって大きな財産です。

本校の教育活動は、確かな学力を身に付けることと併せ、日本文化に根ざす道徳性を含め、豊かな人間性・社会性を身につけることを目指します。自らの考えをしっかりと発信するとともに、他を尊重し誰とでも好ましい人間関係を築くことのできる人に成長してくれることを願います。

本校の教育は、限られた時間と条件の中で、日本の学校教育に準じた学びを提供しようとする挑戦でもあり、学校と保護者の連携によってこそ支えられ成り立つものです。保護者の皆様のご理解とご協力を賜りながら、私たち共通の願いである「子どもの確かな成長」を支えて参りたいと考えております。ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



幼稚部



小学部



中学部



高等部

「学校づくりビジョン」について（改めてのお知らせ）

先般、年度末に保護者の皆様へお知らせいたしましたとおり、本校ではこのたび、「学校づくりビジョン（令和8年度～令和12年度）」を策定いたしました。

本ビジョンは、新たな方針を打ち出すことを目的としたものではなく、これまで本校が大切にしてきた教育理念や学校文化を改めて整理し、言語化することで、教職員・保護者・関係者が共通理解のもとに学校づくりを進めていくためのものです。

いわば、本校の教育活動や学校運営における意思決定の拠り所となる「羅針盤」としての役割を果たすことを意図しております。

本校は、平日は現地校で学ぶ子どもたちが、土曜日に日本語で学ぶ場として、それぞれ異なる背景をもつ児童生徒が集う教育機関です。そのような多様性の中にあって、学校としての軸を明確にし、関係するすべての皆様と方向性を共有することは、今後ますます重要になるものと考えております。

本ビジョンにおいては、

- ・日本語と日本文化を基盤とした学びの場
- ・国際社会に生きる力の基礎を育む学びの場
- ・家庭・地域・社会をつなぐ教育共同体
- ・未来への架け橋としての学びの場

という4つの使命を柱としております。これら4つの使命を明確に意識しながら、教育活動の充実を図ってまいりたいと考えております。

☆☆ お願い ☆☆☆

次の3点について、改めてご理解をご協力をお願いいたします。

- 1 土曜の送迎の際、IDカードを目視で確認できる位置に着用するようお願いいたします。
- 2 お迎えの際は、お子様と合流されましたら、速やかにご帰宅くださいますようお願いいたします。校舎の管理およびお子様の安全確保のため、廊下やホールなどで遊ばせないよう、ご理解とご協力をお願いいたします。
- 3 放課後における図書室の利用は、3時30分までとなっておりますので、ご協力をお願いいたします。



「本ビジョン策定の趣旨」

本ビジョンは、本校の教育理念の継承を確実なものとするための根幹であり、学校運営や教育活動における意思決定の拠り所、いわば学校づくりの「羅針盤」となることを目的とするものである。

バンクーバー補習授業校
(令和8～12年度)
【学校づくりビジョン】
**「一貫した理念のもと、
未来へつなぐ確かな学びを」**

「本ビジョン策定の位置づけ」

本ビジョンは、新たな理念や方針を打ち立てるものではなく、これまで本校が大切にしてきた教育理念や学校文化を改めて整理し、言語化することで、共有と継承を図るものである。

本校のミッション 1

日本語と日本文化を 基盤とした学びの場

帰国後の学校教育に円滑に接続できるよう支援することを最も重要な使命とし、当地で生活する日本語や日本文化に親しむ子どもたちに対し、日本語による学びの機会を保障する教育機関である。

本校のミッション 2

国際社会に生きる力の 基礎を育む学びの場

当地の多文化環境の中で学ぶ子どもたちに対し、自他を尊重し異文化を理解するとともに、日本語と日本文化の学びを通して、国際社会の一員として生きる力の基礎的資質を育成する場である。

本校のミッション 3

家庭・地域・社会を つなぐ教育共同体

本校は、総領事館、日本企業、地域日系コミュニティ、保護者会など、さまざまな関係団体の協働によって支えられる。関係者が一体となり、子どもの学びを見守る学校づくりを推進する。

本校のミッション 4

未来への架け橋 としての学びの場

本校は、ここで学ぶ子どもたちが、互いに学び合う中で成長し、日本とカナダ、さらには世界を結ぶ架け橋となる人材の礎を築くことを目指す。

【教育目標】

主体的に学び、人間性豊かで、 国際社会に生きる基礎力を備えた人材の育成

- 1 自ら課題を見だし、主体的に学ぶ児童生徒を育てる。
- 2 自他を尊重し、思いやりと協調性をもって行動する児童生徒を育てる。
- 3 日本語と日本文化を大切にし、国際社会の一員として生きる基礎的な資質を育てる。

※「国際社会に生きる基礎力」とは・・・

- ⇒ コミュニケーション力：自分の考えを論理的に説明し、他者と対話する力
- 異文化理解力：日本文化を根にもちつつ、多文化と主体的に関われる心の基盤
- 協働的創造力：多様な背景をもつ他者と協働し、新たな価値を生み出す力



確かな学力の育成

- 1 学力の3要素（①基礎的な知識・技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力）を一体的に育てる授業づくり。
- 2 自分の考えを言語化し、伝え合う学習活動の重視
- 3 家庭との連携による学力補充（宿題）
- 4 授業改善に向けた教員研修の計画的実施

豊かな人間性・社会性の育成

- 1 学部や学年を超えた縦のつながりを生かした交流活動の推進（幼小連携、小中連携、学年間交流、縦割り活動）
- 2 児童会・生徒会活動の活性化（主体性、責任感、協働性を育む活動の推進）
- 3 生活指導体制の強化（規範意識、公共性・多様性を理解させる指導）

「なぜ補習校で学ぶのか」という目的意識の醸成

- 1 補習校卒業生や地域の専門家による講話
 - 2 中学部・高等部を対象とした
キャリア講話
- など、児童生徒が将来像を描くきっかけとなる学習機会を推進する。

☆☆ 目指す児童生徒像 ☆☆☆

- ・日本語で思考を整理し、表現・創造する力をもつ児童生徒
- ・他者の人格を尊重し、他者と協働して課題を解決する児童生徒
- ・自分の進路と生き方について主体的に考えようとする児童生徒

☆☆ 目指す学校像 ☆☆☆

- ・誰もが安心して通うことのできる学校（いじめや差別、茶化し、からかい等がなく、敬意をもって互いの人格を尊重できる学校）
- ・日本語・日本文化を大切にし、カナダとの架け橋となる学校
- ・家庭や関係者と協働し、成長する学校

☆☆ 目指す教師像 ☆☆☆

- ・子どもの成長を信じ、適時・適切な指導のできる教師
- ・学び続け授業改善に主体的に取り組む教師
- ・チーム学校の一員として学校の理念を体現する教師
- ・児童生徒、保護者に信頼される教師

☆☆ バンクーバー補習授業校の特色として継承する学校文化 ☆☆☆☆

★話の聞き方・発言の仕方を大切に学習活動の推進

発達段階に応じて、話の聞き方や発言の仕方を丁寧に指導し、互いを尊重し合いながら思考を深め合う学習活動を推進する。

★異学年交流を通じた人間的成長の促進

異学年での対話や交流、協働活動を通して、思いやりや責任感、リーダーシップを育成するとともに、学校全体で支え合う文化を醸成する。

★児童会・生徒会を中心とした自治活動の充実

児童会・生徒会を中心に、自ら考え話し合う活動を通して、課題を解決する経験を重ね、主体性と責任感を育む。

★将来を見据えたキャリア教育の充実

発達段階に応じた人間形成を基盤に、将来への展望と学ぶ意義の自覚を育てるキャリア教育を推進する。